

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100611
法人名	足羽福祉会
事業所名	愛全園グループホーム
所在地	福井市丸山町40-7
自己評価作成日	令和 6年 1月 25日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 6年 2月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和5年度からグループホームを再開して、利用者様も新しい環境に慣れる様に人としての尊厳や人格などを尊重し、一人ひとりの認知症状に関して職員間で理解・共有を行い、家庭的な雰囲気の中で生活を送れるような支援を心掛けている。又、コロナ禍が少し緩和された事で、フロア内でおやつ作りや出前を取って気分転換や楽しみを見出し、感染対策は行いながらも、外出を行えた。又、認知症に対しての理解を深める為に、認知症の研修等を通して、知識・技術の向上にも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は福井市の東部に位置し、南側の大きな窓からは周囲の田園地帯や山々を見渡すことができるなど、四季の移ろいを感じられる環境にある。グループホームは、同法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービスセンターと同じ建物の3階にある。3階に事業所があるため、足羽川の花火を楽しむこともできる。総合玄関を入るとすぐに受付があり、来訪者には必ずうがい、手洗いを勧め、徹底して感染予防に取り組んでいる。事務所の横に売店があり、利用者は好きなお菓子等を購入することができる。また、食事のメニューが選べる日や出前の日・弁当メニューの日など、食事を楽しむことができる支援を心がけている。職員は「第2の家になって欲しい」と、常に利用者の思いを大切にしながら日々のケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	同法人内高齢者支援部門共通のサービス提供指針、事業所独自の指針、スローガンを掲示して、全職員が認識共有している。	法人・事業所の理念や指針と、毎月変わる接遇のスローガンを職員控え室の入り口に掲げ、全職員が出勤時に、必ず確認してから仕事に入っている。また、接遇スローガンに対して毎月振り返り、3か月ごとに評価を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長いコロナ禍の為、地域に出向くことがなく、地域とつながりながらの日常的交流はできていない。	コロナ禍以降、地域住民との交流ができない状態であるが、中学生の職場体験などは受け入れている。コロナ禍以前に行っていた、施設内の地域交流センターの再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GH開催後は2か月に一度の運営推進会議は実施できている。	運営推進会議では参加者全員から要望を聞き、次の開催日を決めている。運営状況・サービス利用状況等を報告し、意見・要望を聞き取り、日々のサービス向上に繋げている。	運営推進会議に家族の参加が得られていないため、家族に議事録を送付し、運営推進会議の取組み状況を理解してもらい、会議への参加につなげるなどの取組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	併設の地域包括センターがあり、地域にかかわる方法など相談アドバイスを受けている。	事業所に地域包括支援センターが併設されているため、相談したりアドバイスをもらえる環境である。また、地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加しており、密に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在拘束の必要のある利用者様はいない。施設内の身体拘束廃止委員会で、拘束についての検証や勉強会を行っている。また家族様には身体拘束廃止の承諾書を頂いている。	拘束予防マニュアルを作成している。定期的にインターネットで研修を行い、研修後にテストも実施している。事業所は施設の3階にあり、エレベーターは自由に乗り降りできるが夜間は停止している。1階の玄関は夜のみ施錠している。転倒を繰り返す利用者のために、センサーマットの利用を検討したが、体力作りや見守りを行い、拘束をしないケアを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内虐待防止委員会で年に2回のアンケートを実施。また勉強会も行っている。虐待の案件ではないか、ミーティングにて検証も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の職員同士で学ぶ機会があり情報を共有している。また、日常生活自立支援については包括センターからの情報を共有して学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今回は対象者はいないが、必要に応じて相談や支援に努めたいと思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナが緩やかになり、週1回の面会が出来ている。また、利用者様、家族様からの電話の要望にも応じている。	利用者の担当制を導入している。各担当者が責任を持って利用者と家族の架け橋になっている。現在、1家族あたり週1回、2名まで居室での面会が可能としている。面会時に意見・要望を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談(1ON1)を実施時、意見や提案、不安など聞くよう心掛ける。また、自部署のミーティング時お互いの意見交換を行っている。	ミーティングや申し送り時に、職員の意見や要望・提案を聞く機会を設け、日常的に話をしやすい関係性を構築している。上司との1対一の面談があり、意見や要望を吸い上げる体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での人事評価制度を導入、また年1回の意向調査を実施している。意向調査の結果で面談を行い意見や要望、不安等を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、園内の研修計画をたてて実施を行う。コロナも緩やかになり、集合での研修が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流事業を小規模ではあるが行っている。園児との芋ほり・障害者との運動会等 また、サービス実践者報告会の実施		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に家族様やケアマネ、医療機関からの情報をしっかりと聞く。また、入居後も本人様の想いに耳を傾き、記録などを通して他の職員と情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に家族様と話をして本人様に対しての思い等を聞く。又、電話や面会の際に要望や不安等を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険外の福祉用具等の他のサービスや三和薬品へのパット注文等、他のサービス利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所のスローガン「第二の家」になるよう、居心地の良い過ごしやすい環境を整える様に意識をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の受診や、本人様に必要な物に関しては家族様に依頼をしている。又、家族様が来られた際は本人様の近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策の為、週に一回家族様の面会が可能な状態。又、利用者様から家族様へ年賀状等を作成して送っている。	感染対策のため、週に1回1家族2名まで居室での面会を可能としている。家族のみではなく、友人も面会できる。利用者から家族へ年賀状を送る支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士での揉め事等があった際には職員が仲介に入り、話しを聴くようにしている。1人の利用者様では無く、周りを巻き込んで一緒に行うよう工夫し支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との関わりの中で個々の希望や意向を把握している。また、ご家族との面談を通じて得た情報を活かしている。	利用者との日々の生活の中で、会話や表情を通して思いや意向を把握し、職員間で情報共有を図るよう努めている。面会時などに、家族の思いや意向を確認し、利用者に家族の意向を話し、利用者の思いを確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談でご家族から情報を収集し、サービス事業者からも引き継ぎを受けて把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎出勤時に業務日誌を確認し、また、口頭で申し送りも行って情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が毎月のモニタリング(評価表の作成)と本人からの意向を確認し、ケアマネを中心にプランの見直しを行っている。ご家族には面会時に意向聴取しプランに反映させている。	各担当職員が日々他の職員や家族の意見等を聞き、ケアマネジャーを中心にモニタリングやケア会議で検討し、現状に即した介護計画を作成している。利用者の状況に応じて随時変更し、適切な支援ができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録や日誌・口頭での引継ぎで情報共有を図っている。ケアの変更等が生じればその都度、事業所の全職員に「申し送り」を行いケアの実践をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じて受診往診の対応を行っている。施設の定めるコロナ対策の範囲内で行事を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人の包括支援センターや居宅ケアマネの協力を得て、また運営推進会議の中で地域資源の情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続してもらいながら、皮膚科や歯科等の園の協力医とも連携し適切な医療を受けられるよう務めている。また定期受診時は、受診資料を作成し報告を行うことで関係構築を図っている。	かかりつけ医に、利用者全員が継続受診している。状況に応じ職員が同行することもあるが、基本的には家族が同行し、家族は事業所が作成した情報書を持参している。医師から返信があり、日々のケアに生かしている。協力医として皮膚科と歯科医の往診体制があり、口腔内ケアに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他部署の看護師と協働している。随時報告を行い助言を受けながら、ご家族に状況報告を行い、場合によっては受診や往診に応じて情報提供を行い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はケアマネが速やかに医療機関に情報提供を行っている。入院中の経過を他の職員も随時医療機関と連絡を取り合い、早期退院に繋がるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人に対し「気持ちシート」を用いるなどして医療のニーズや終末期に対する意向を適宜確認している。重度化が予想される利用者様に対しては、担当者会議を開催しその都度説明を行っている。	重度化・終末期・看取りに対応できることを、入所契約時に家族等に説明している。重度化・終末期が確認されたとき、利用者・家族と話し合いを重ね、利用者・家族の意向を確認しながら対応している。入院や入所の紹介・支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内で緊急時対応の勉強会を実施している。「緊急時対応のフローチャート」を備え置き、随時確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	主に火災を想定した避難訓練を実施している。「福祉避難所」として、備蓄品を随時確認更新している。コロナ禍にて地域との合同訓練は行えていない。	年2回火災・地震を想定した避難訓練を実施している。緊急連絡網と防災マニュアルを作成している。事業所は福祉避難所の指定を受けており、備蓄品は地域住民分も準備している。また、近隣の福井愛育病院・福井循環器病院と災害時協定も締結している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フェイスシート等を通してその人を知る。又、利用者様には○○様と人生の先輩として敬う接し方で統一している。	理念である、「3秒待つ・第2の家・常に笑顔・お互いを認める」の実現のために、利用者の自己選択・自己決定を大切にし、尊厳を重視したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の想いはしっかりと聞くようにしている。又、強制ではなく選択出来る声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で利用者様に活動内容等を説明を行い、本人の意思で参加の有無等を決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	性格や、生活歴から本人様の好みに合わせて着替えなどを準備したり、本人様と一緒に選んでもらう等支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を理解し、出来る範囲で盛り付けや洗い物等を一緒に行っている。又、自宅で使用していた茶碗や箸等を持参してもらい、馴染みの物を使用してもらう。誕生日の月には食べたい出前等を頼んでいる。	利用者は、料理の盛り付け、皿洗い、テーブル拭き等出来る事を手伝っている。選択食や誕生月に食べたい出前を頼むなど、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は1500calで水分量は一日平均1500cc提供している。医師の診断等があり、制限等がある際は相談などを行い、個別に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケアを実施している。不十分な所は介助にて行い、入れ歯等は職員にて管理している。又、園にて歯科の往診があり、必要な際は利用が可能。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が多い利用者様に関しては、排泄パターンを記録や職員間で話し合い、定時にトイレの声掛けを行い、自然排泄に心掛けている。	排泄チェックシートを用いて排泄パターンを把握している。オムツ使用者はゼロである。定期的にトイレの声掛けを行い、トイレでの自然排泄を心がけている。夜間は睡眠を優先し、利用者によっては紙パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量等をしっかりと摂取してもらい、歩行などの運動等を行い腸の活性化に繋げている。又、医師等とも相談を行い便秘予防等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は職員にてメンバー等を決めていますが、その日に利用者様に希望等を聞き入浴を行っている。又、その方の入浴のスタイルに合わせて、時間や温度にも気を使っている。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の状況に合わせて支援している。入浴剤は利用せず、シャンプーやリンスなどは事業所のものを使用しているが、希望があれば利用者の好みのものを使用することができる。下着や洋服の準備は、利用者と一緒にやっている。	ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じられるようにするなど、入浴を楽しめる支援を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理にフロアーで過すのではなく、適宜利用者様の表情や身体状況に合わせて、休息の時間等を取り、自室にて安眠出来る環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋をその都度綴り、定期受診後には最新の物に変更を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	既往歴などを基に、利用者様の得意な事にあった役割などを提供し支援している。又、誕生日の月にはその人の好きな出前を注文したり、売店に行ったりと楽しみや気分転換を増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍が少し解除になり、11月に今年初の外出が行えている。又、利用者様の希望によっては外の散歩等に出かけた。	コロナ禍で殆どの外出は自粛しているが、今年度初めて11月にグリーンセンターに外出した。現在は散歩程度の外出支援をしている。買い物に出かけることができないため、事務所に併設している売店を利用して買い物を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい利用者様も居る為、家族様に同意の元金庫にてお金を預かっている。売店等を希望した際はそのお金を渡し、使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望にて家族様に電話をしたい際には、電話をする等対応している。手紙なども園に届いた物を本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や四季に合わせた展示品等を飾る事で、季節感を出している。又、利用者様の好みの物などをフロアー内に置いたりする事で、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	廊下、共用空間、対面キッチン、座敷スペース、居室を含めた空間は、ゆとりある広さが確保されている。フロアや廊下の壁には、季節を感じられる作品が掲示されている。ゆったりと、落ち着いて過ごしやすい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で洗濯たみをしながら過ごす利用者様も居れば、廊下等にもソファー等を置き、自分の好きな時に好きな場所で休憩をする利用者様も居る。その都度要望に合わせ工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が居心地よく過ごせるように、自宅の馴染みの物などを居室に置いてもらい、安心できる環境をその都度整えている。	居室にはベッド、エアコン、洗面台、タンスが備え付けてあり、馴染みの家具やテレビ等を持ち込むことができる。家族の写真や作品を飾るなどその人らしい温かなプライベート空間となっており、清潔感が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様にあった生活が送れるような家具の配置を行い、歩行器等も転倒要因等にならない様な置き場を検討し、安全な環境作りを心掛けている。		